

教科等研究会（小学校社会科部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

児童が主体的に思考・判断し、表現する社会科学習の創造
～言語活動の充実を通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/25	32人	木倉小	10/6	広安小	三原旬俊	11/2	益城中央小	淵上祐子	1/26	矢部小	上土井亨

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究主題設定の理由

・教育の今日的課題から

「知識基盤型社会（新しい知識、情報、技術が、政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの転換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がますます重要になると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、目指す人間像でもある。

学習指導要領では、指導計画作成において配慮すべき事項として「各教科等の指導にあたっては、児童の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る上で必要な言語事項を整え、児童の言語活動を充実すること。」と記された。

このことは、知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、言語活動をさらに充実する必要があることを示している。

また、国内外の学力に関する学力調査からも思考力・判断力・表現力等を問う記述式の問題に改善されつつあるものの、やはり課題であることが明らかとなっている。

今後も習得した知識や技能をもとに、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

・本研究部会の歩みから

本テーマは5年次となる。研究会では学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にしたい問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にしたい課題を追究していく学習の取組は、多面的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの研究の取組と成果をはじめ、本郡の県学力調査による傾向と分析、上益城郡の研究テーマを踏まえた上で、これまでの社会科学研究会の歩みを土台として言語活動の充実及び習得した知識や技能をもとにした思考・判断し、表現する授業づくりを充実させ、進めていくこととする。

② 研究の視点

視点1 「進んで課題を追究する学習過程の工夫【問題解決学習】」

児童が課題を発見し、問いを持ち、課題解決の活動を実践しようとする学習を行うことが主体的な学習を行うことであると考え。そのために、児童に様々な社会的事象に出会わせたり、生活体験から学習対象とする社会的事象に気づかせたりするなどの手立てが必要であり、児童が意欲を持って学習する態度の育成につながるものとする。

これまで、「主体的に考え、表現する」学習活動として、問題解決的な学習（「課題づくり」→「予想」→「追究・調べ学習」→「情報整理」→「再追究」→「学習のまとめ」）の実践が積み重ねられてきた。今年度も更に問題解決的な学習を充実、深化した研究を行っていくこととする。

視点2 「基本的な知識や技能を確実に身につける指導の工夫」

単元（題材）における基本的な知識や技能を学習過程に位置づけ、確実に身につけられるように取組を行っていく。その習得した知識や技能をもとに思考力・判断力・表現力等を培い、併せて活用する力を育成する指導を行う。

本研究会の取組では、単元に即した基礎・基本の徹底事項を学習課程に位置づけたり、獲得した知識をもとに今後の社会の情勢や変化について思考させるなどの取組を行ってきた。今年度も社会科の土台を確実に身につける指導の工夫を行っていくこととする。

視点3 「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」

社会科の技能は観察と資料活用であり、資料を活用して必要な情報を収集したり、整理し、まとめたりする力は確実に児童につけるべき力である。

本研究会ではさらに、調べたことから根拠を見つけ、思考・判断したことを表現し、自分の考えを他人と交流できる力までを活用する力ととらえ、研究を進めていくこととする。

視点4 「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」

評価活動は、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況の把握をより正確かつ効果的に行うことが大切である。また、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善に生かしたり、多様な達成状況の児童に対して、個別指導を行うめやすとなる。

本研究会では、めざす児童像に即して学習後に新しい自分を発見するための評価や児童の変容を導くような評価、その児童の変容を見届ける評価を工夫することとする。

そのためには、現実的に可能な様々な方法を使い、できるだけ複眼的な評価に努めることとし、児童の取組や育ちを、刻々に見取り、励ます指導的評価活動や児童自身による自己評価や自己変容記録、児童同士による相互評価等を更に充実させた取組を行っていくこととする。

視点5 「人間の生き方に迫ることのできる学習活動の工夫」

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方を学び、自らの生き方を考えるという本質をもつ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなどの工夫を行いながら、先人の思いや願い、身近な人々やゲストティーチャーをはじめ様々な手立てで人の生き方や考え方を学習し、人材を活用することが教材の本質につながると考えられる。

特に、問題解決学習における再追究の場面で、人間の生き方や考え方を分かりやすく教材化することで社会科の本質に迫る学習を展開するものとする。

(2) 成果と課題

【成果】

- 会員数の増加及び会員の主体的かつ積極的な研究活動により、事前研究会及び授業研究会の深化、活性化が図られた。授業研究会では、学年部に分かれ、ワークショップ形式で活発な意見交換と協議を行い、研究内容を深めることができた。また、学年毎による部会編成は、会員の担当学年の研究も深めることができ、事前研を含め、実践的な研究会となった。
- 3回の提案授業が、児童にとって身近な地域素材を生かしたものであり、上益城だからこそできる授業実践の取組となった。地域教材を活用することで児童の学習意欲が向上し、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- 研究の視点を明確にすることにより、各学年部会で活発に事前研究会が行われた。事前研究会への出席率も高く、会員の意見交換もよく行われ、研究の活性化が図られた。

【課題】

- 児童の思考力、判断力、表現力等を高めることのできる言語活動の工夫及び教材開発が更に必要である。
- 地域素材をもとに単元を構成した場合の評価方法や評価基準の設定方法の研究が必要である。
- 社会科部会員でない教師にも事前研究会への参加の呼びかけや研究内容等を伝えるなど郡内全体の社会科研究の普及、向上に努めていきたい。



【ワークショップによる研究会】

4 実践事例

(1) 授業の概要

- 単元名 「店ではたらく人」(東京書籍)

【研究の視点との関連】

視点1「進んで課題を追究する学習過程の工夫【問題解決学習】」について

- 身近な課題を設定することで学習意欲を高める。
- 学習展開と発問の工夫により児童の課題解決における追究意欲を高める。

視点2「基本的な知識や技能を確実に身につける指導の工夫」について

- 店の仕組みや従事する方々の仕事及び、それらに関する言葉や社会の役割を理解させる。
- 資料の読み取り方や学習問題の立て方、課題解決の仕方を理解させる。

視点3「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」について

- 友達との対話活動を重視しながら思考を広げ深める活動を設定する。

視点4「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」について

- ワークシートを活用して自分の考えを明確にさせたり深めさせたりしながら、児童の実態に応じて学習活動の展開を行っていく。
- 児童の実態及び思考・判断に柔軟に対応しながら、評価計画に沿った指導の修正を行っていく。

視点5「人間の生き方に迫ることのできる学習活動の工夫」について

- 震災等にも関連させながら、地域と共に歩みながら地元でお店を続けている方々の思いや願いを考える活動を重視した単元構成を設定する。

【自 評】

- 地元のお店を教材化することで児童の関心や意欲が高まり、充実した学習となった。
- 学習の過程で児童の思考が転化する場面を取り入れたことで更に思考が深まった。
- 児童の思考の深化や定着度等の評価方法を更に考えていきたい。

【質疑・応答及び研究協議】

質) 地元商店の教材化にあたって、どのように見つけているのか教えて欲しい。

応) 事前研究会の中で地域の店の話が出たり、児童の実態調査から児童が利用している地域のお店などを知ることができた。指導内容に合わせて児童にとって身近で関心や意欲を持って学習できる最適な教材を探すようにしている。

質) 今回取り上げた個人商店と近くのスーパーでは地元の方はどちらの利用が多いのか。

応) 利用者数は調査していない。本単元では、どちらが良い悪いの店の比較をするものとして教材化しておらず、様々な経営形態による店のよさを伝えることや教科書で扱うスーパーのみの学習から、児童の思考の深化や多角的多面的な見方を養うものであることに留意した。

協) 児童が身につけた見方や考え方が身近な個人商店の教材化により、転化され、学習内容がより深まり、多面的、多角的な見方ができるようになる学習であったと考えられる。

協) 単元の目標を「お客さんが来たくなくなるお店をつくろう」と設定することで、児童の意欲を引き出すと共に、お店の工夫やそこに働く方々の思いや願いまで学習できていた。学習問題や授業のまとめの重要性が改めて理解できた。

協) 児童が学習課題を思考する際に比較したり、既習事項を用いたりしやすい板書の工夫がされており、児童にとって活動しやすい学習であった。

【助言・まとめ】

- 50年以上も地域で商売されている個人商店を教材化することで児童の学習意欲を引き出す学習となっていた。



【思考を転化させる際のわかりやすい板書の工夫】

- 経営形態が全く違っても同地域で人気のある2つの地元のお店から、児童が「なぜかな？」と考える効果的な教材化の工夫がなされていた。児童にとっては、社会的なものの方・考え方を学ぶよい学習になったと考えられる。
- 授業で考えたことは地域住民としての考え方や願いでもあり、これらをもとに学習を進めることは、児童が主体的に社会参画する土台作りにもつながる有意義な学習になると考えられる。

(2) 学習指導案

○ 単元の目標

- (1) 地域には販売に携わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域などのかかわりを理解するとともに、販売の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとする。
- (2) 地域の販売の仕事の様子から学習問題を見だし、見学・調査をしたり、資料を活用したりして具体的に調べたことをグラフや白地図、作品などにまとめるとともに、これらの仕事と自分たちの生活とのつながりについて考えたことを適切に表現する。

○ 単元の指導計画（14時間扱い）

内容（時数）	主な学習活動・内容	評価規準・研究視点
①毎日の買い物での気づき（1）	○日常生活の中でお店に行ったり、買い物をしたりした時の気づきを出し合い、単元の導入を行う。	関意態、思判表 研究視点①③
②学習問題の作成（2）	○お客さんが来たくなるお店の工夫を考え、学習問題を作成する。	思判表 研究視点①③
③スーパーマーケットの工夫（3）	○お店の見学を行いスーパーマーケットの工夫や努力を知る。	関意態、思判表 研究視点②⑤
④まとめの発表（2）	○学習して調べたことや分かったことをまとめる。	思判表 研究視点④⑤
⑤個人商店のひみつ（1）	○スーパーマーケットと違う経営形態のお店について考える。	思判表 研究視点②③
⑥お店の様々な工夫（3）	○既習事項に加えて、お店に従事する方の思いや人のつながり等の新しいものの見方や考え方を知る。	知理 研究視点③⑤
⑦学習のまとめ（2）	○お客さんが来たくなるお店を考えることで、学習のまとめを行う。	関意態、知理、思判表 研究視点②④⑤

5 本時の学習

(1) 目標

- ・個人商店の売るために大切にしていることをスーパーマーケットをもとにして比べ、店の違いや特色、工夫などを予想することができる。

(2) 展開

過程	学習活動	児童の思考の流れ（・）	教師の支援（○）と評価	備考
導入 5分	1 本時の課題をつかむ。	・どのお店もスーパーマーケットのよう な工夫がされているのだろうか。	○スーパーマーケットの学習を振り 返り、本時の課題につなげる。	写真
展開 35分	スーパーマーケットのようではないのに、吉本商店はなぜ長くお店が続いているのだろう。			
	2 お店の工夫を 考える。 (1) 一人学び (2) 全体学び	・値段が安いし、新鮮なのかな。 ・1つの袋にたくさん詰めているな。 ・値段の安さだけがひみつなのかな。 ・入り口がたくさんあるな。	○店内の様子やお店で働く方の様子 (VTR・写真) から、お店の 工夫について予想させる。 【思・判・表】個人商店の工夫 を既習事項をもとに予想するこ とができる(ワークシート・発言)	VTR ワーク シート
終末 5分	3 お客さんから 話を聞き、再考 する。 (1) 一人学び (2) 全体学び	・何年もお店に通っているってすご いな。 ・お店や働いている人の工夫がある のではないかな。 ・野菜がすごく新鮮なんだな。 ・これだけのひみつで50年以上も お店が続くのかな？ ・お店に行って聞きたいな。	○何年も通い続けるお客のインタ ビューの内容に注目させる。 ○地域や人とのつながりを大切に しているインタビューの言葉に 注目させる。	VTR 写真
	4 学習のまとめ をする。	・お店に行って、本当のひみつを見つけ よう。 ・自分の目で早く確かめたいな。	○学習問題を意識した学習のまと めとする。 ○次時の予告を行い、家庭等におけ る児童の主体的な学習を促す。	ワーク シート

※十分満足できる状況（A）の例

個人商店の工夫を既習事項と合わせて、自分の生活経験や身近で働いている人々の気持ちなども含めて予想している。(ワークシート・発言)